

日本天文学会早川幸男基金渡航報告書

2004年9月10日採択

申請者氏名	渡部靖之 (会員番号 4380)
連絡先住所	〒 305-8577 茨城県つくば市天王台 1-1-1 筑波大学 計算科学研究センター
所属機関	筑波大学 数理物質科学研究科 物理学専攻
職あるいは学年 (年齢)	D1
電子メール	watabe@rccp.tsukuba.ac.jp
渡航目的	研究集会でのポスター発表
講演・観測・研究題目	Obscuration of Active Galactic Nuclei by Circumnuclear Starburst-Origin Clouds
渡航先 (期間)	ドイツ Bad Honnef(2004年8月14日～8月23日)

私は、8月16日から8月20日にかけて、ドイツの Bad Honnef で開催された国際会議：The 331. Wilhelm und Else Heraeus Seminar "The Evolution of Starbursts" に参加しました。参加人数は70人弱、口頭発表45講演のシングルセッション、ポスター発表20人という、比較的コンパクトな国際会議となりました。この国際会議は、爆発的星形成活動そのものの性質・進化に加え、爆発的星形成活動と活動銀河中心核 (AGN)、銀河、宇宙論との関係に注目したものでした。私はこれまで、爆発的星形成による AGN の進化の理論的な解明を目指して研究を進めていますので、今回の国際会議に興味を持ち、参加しました。

参加者の大部分は観測研究者であったため、私が発表した理論研究と観測を対応させ、直接議論できる良い機会となりました。また、我々が興味を持ち、研究している内容は、観測精度の問題もあり、まだ十分に観測されてはいませんが、この国際会議で私が理論研究を発表したことによって、観測研究者にとっても利点があり、今後、新しい視点で観測を進められることができるものと思われまます。

今回の発表は、宣伝講演有りのポスター発表でした。宣伝講演は、2分間という非常に短いものでしたが、私にとって大勢の前に立って英語で発表することは初めての体験でしたので、今後、国際会議で口頭発表する前段階としても、非常に良い体験となりました。また、宣伝講演後、ポスターを聞きに来る人の数が増えましたので、研究内容を宣伝講演できちんと伝えることができたと思え、ほっとしました。

この国際会議で講演をされていた観測研究者の発表内容の中で、興味深いものがいくつかありました。その中の一つに、AGN 周囲 (中心から数 100pc の領域) で OH MegaMaser が観測された、という発表がありました。我々の計算結果でも数 100pc 領域に高密度なガス雲が分布しているため、我々の研究結果と観測結果が一致していると思えましたので、そのことを主張しに行きました。その結果、その観測研究者と直接有意義な議論をすることができ、我々の研究に興味をもってもらえ、「非常に面白く、興味深い研究だ」、というコメントを頂けたことが今回の渡航で得られた成果の一つです。このように、私のポ

スターの内容について議論した結果、面白い研究だ、と直接言ってもらえたことは、今後の研究を進めていくうえで非常に大きな自身になりました。ただ、私の英語力がもっと高ければ、もう少し深い議論ができたと思いますし、また、食事や休憩時間の際に、コミュニケーションをうまくとることができなかった（話が聞き取れず、つらかった）ことを考えますと、自分の研究を宣伝するためには、英語もしっかりと修得しなければならないことを痛感しました。

最後になりましたが、私の海外渡航を援助して下さった早川基金関係者の方々に深く感謝致します。今後はこの国際会議で得られた経験を活かし、広い視野を持って自身の研究を発展させていきます。本当にありがとうございました。